

Welcome to Matsushima !! ~世界の皆さんに松島の魅力を伝えよう~ Matsushima Kid Guides 2018 松島こども英語ガイド

8月17日、平成30年度「松島こども英語ガイド」事業の修了式が行われ、参加者へ町長から修了証書が手渡されました。今年で3年目を迎える本事業は、町内の小学5年生から中学3年生までの子どもたちが外国人観光客に英語でガイドを行うものです。町の歴史や名所旧跡を学び、英語でその魅力を伝えることで、自分たちが住んでいる松島町を誇りに思い、世界に向けて発信できるようにしてもらおうことが目的です。約1か月間の子どもたちの活動をご紹介します。



▲雄島の渡月橋でガイドを聞く子どもたち



▲ジェスチャーを交えながらの練習

いよいよ本番・ガイド実践日
8月11日と16日に外国人観光客を招いてガイドの実践を行いました。参加者は欧米やアジア、南米など国籍が様々ですが、はじめは緊張した面持ちでしたが、参加者の優しいフォローもあり、英語でコミュニケーションを取りながら徐々に打ち解けていきました。ガイドポイントで、子どもたちは練習の成果を充分に発揮することができました。途中テキスト以外の質問を受けるときもありましたが、子どもたちはグループで確認し合いながら懸命に答えていました。また、交流会では松島プレミアムに認定された商品を紹介し、参加者と一緒にその商品を食べながら親睦を深めました。



▲実践日は楽しくガイドできました

プロのガイドさんに学ぶ
7月14日、今年の松島こども英語ガイドがスタートしました。第1回目は開講式とオリエンテーションです。子どもたちは、町長からキッズガイドの名札を手渡され、わくわくした様子でガイドスポットに向かいました。今年、外国人観光客の皆さんをご案内する場所は「雄島、瑞巖寺、比翼塚」です。雄島と比翼塚は町内で観光ガイドを行っている松島ボランティアガイドのガイドさん、瑞巖寺は、株式会社社松のガイドさんに案内をしていただきました。子どもたちは日ごろから多くの観光客をご案内しているガイドさんの説明を、メモを取りながら熱心に聞いていました。

ネイティブの発音を真似しよう
夏休みに入り、英語サロンが始まりました。3つのチームに分かれ、ALTのフライアム先生、マーティン先生、ステフィン国際交流員（CIR）と一緒にガイド内容やスモークトックについて学びます。初日は松島善意通訳者の会の皆さんにも参加していただき、ガイドのお手本やガイドの際に気を付けていること、外国の方と挨拶をするときの礼儀などを教えてもらいました。子どもたちは回を重ねるとともに、テキストに頼らずガイドができるようになっていきました。ネイティブの発音を学ぶことで、より自然な英語を話せるようになっていきました。

実際に現地を回ってみよう
英語サロンに加え、現地研修会でより実践的な練習を行いました。ALT、CIR、松島善意通訳者の会の皆さんを外国人観光客に見立て、本番の流れでガイド練習を行います。子どもたちは実際に案内する場所やルートを覚え、グループのメンバーと助け合いながら練習をしました。ジェスチャーを交えながら説明し、英語で雑談をするなど、段々と自信をもってガイドができるようになっていきました。



▲現地研修で自信をつけます

ガイド実践日の参加者は英語圏ではない国からも多く参加していただきました。子どもたちは英語を通じて世界中の人々とコミュニケーションを取れることを実感していました。

Appalachian Air Trick-or-Treat

Appalachian Mountains (アパラチア山脈) は、カナダとアメリカ合衆国の東北部に延びる大きな山脈です。昨年7月にアパラチア山脈のあるアメリカ合衆国・ノースカロライナ州からやって来た Stefan 国際交流員のコラムです。



October means Halloween and Halloween means Trick-or-Treating. But where did Trick-or-Treating come from?

10月はハロウィンが有名ですね。ハロウィンというトリック・オア・トリートという習慣があります。トリック・オア・トリートというのは、仮装をして近所の家を周り、お菓子をもらうことです。でも、トリック・オア・トリートの発祥は？

As is true with many American traditions, Halloween has its roots in many different cultures. For the Celts, many of whom lived in modern-day Ireland 2000 years ago, the New Year's Samhain festival was on October 31st. It was believed that the line between the worlds of the living and the dead blurred on this day, so the priests could more easily make predictions about the future due to the presence of otherworldly spirits. It is said that to hide themselves from the spirits during the sacred bonfires of this time festival participants wore costumes.

様々なアメリカの習慣がそうですが、ハロウィンのルーツは多様な文化の上にあります。2000年前からアイルランドに住んでいたケルト人は、お正月という意味の Samhain を10月31日に祝いました。その日は、あの世とこの世の世界が近くなるため、幽霊によって僧侶の靈感が強くなると信じられていました。その時に、聖なるたき火を焚き、幽霊と同じように、参加者が仮装をしたと言われています。

By the mid-6th century Rome conquered most of the area, so their two festivals occurring around that time of year, one commemorating the dead and another celebrating the goddess of fruit and trees became incorporated with Samhain practices. The latter may be the origin for bobbing for apples. By the 8th century, the Catholic All Saints' Day had been moved to November 1st. 'Halloween' is a contraction of 'All Hallows' Eve,' which also means 'the night before All Saints' Day.'

6世紀半ばまでにローマはこの地域の大部分を征服しました。10月頃に2つの祭りが開催されます。ひとつは死者のための祭で、もうひとつは果実と木の女神の祭りです。その時に行っていたリンゴ喰い競争が今でも行われています。8世紀までに、カトリック教会の諸聖人の祝日が11月1日に変わりました。Halloween という意味は、「諸聖人の祝日の前夜」の省略したものです。

In certain parts of Britain people used to dress up and go door to door singing and offering prayers for the deceased; the people living in the houses would offer food as thanks. The American colonists taught this custom to their children, and over time the food changed to candy. This is the most popular explanation for why Americans trick-or-treat today.

昔イギリスのとある場所で、仮装のままの姿で合唱し、死者のために祈りながら家を周る習慣がありました。住民は恩返しに何か食べ物を供えました。アメリカの開拓者はこの習慣を子どもたちに伝え、時代と共にプレゼントが食べ物からお菓子に変わっていきました。これがアメリカのトリック・オア・トリートという習慣の発祥と言われています。